

米国アカデミー賞公認、国際短編映画祭 ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026

**4,921点の応募作品から、ジン・オ監督の『スピーディ!』が
グランプリ「ジョージ・ルーカス アワード」を受賞!**

アカデミー賞短編部門ノミネート選考対象となる5部門の優秀賞も発表

今年度新設アワード初の受賞者発表や、「えんとつ町のプペル」新作の世界初公開も

**北村一輝さん、水野美紀さん、西野亮廣さん、和田彩花さん、
佐々木久美さん(元日向坂46キャプテン)、庄司浩平さん、石井裕也監督ら
豪華ゲストがアワードセレモニー&レッドカーペットに登壇!**



米国アカデミー賞公認、アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア (SSFF & ASIA) 2026」は、6月10日(水)にアワードセレモニー&レッドカーペットをLINE CUBE SHIBUYAで開催しました。本セレモニーは、世界114の国と地域から応募のあった4,921点の作品から、計5作品が翌年のアカデミー賞短編部門へ推薦される米国アカデミー賞公認のライブアクション部門(インターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパン)、ノンフィクション部門、アニメーション部門の優秀賞をはじめとした、合計12アワードの発表と授与を行いました。今年は、新たにTom Yoda Next Frame Awardを設立し、初の受賞者を選出。他にも、サイバーエージェント縦型アワードや、最震賞 supported by CRG、U-25 Project Best Short Award、Shibuya Diversity Award、ホッピーハッピーアワードの受賞者発表と授与、新プロジェクトとして日本直販と共同でスタートする「ショートドラマ企画コンテスト」の発表など、盛りだくさんな内容で実施しました。

また、本年度の映画祭の締めくくりを飾るレッドカーペットには、北村一輝さん、水野美紀さん、西野亮廣さん、和田彩花さんをはじめとしたセレモニー登壇者や、お祝いに駆けつけたVIPゲストの宮藤あどねさんなど、豪華なゲストが登場しました。



SSFF & ASIA 2026 ライブアクション部門、ノンフィクション部門の審査員



アニメーション部門の審査員

■ 映画祭アンバサダーLiLiCoさん&別所の登場でセレモニーがスタート！

アワードセレモニー冒頭、まずは本映画祭代表の別所哲也と映画祭アンバサダーのLiLiCoさんが登壇。別所は、「今日は三階席まで完売御礼です。今年も多くの方々にご来場いただき、会場には日本だけでなく、21の国と地域からクリエイターが集結しています。ご参加いただきありがとうございます！」と感謝を述べました。LiLiCoさんからは、「いよいよこの日がやってきましたね！20年以上、少しずつ深くショートフィルムの世界に入り込んできました。今年はタイで作られた着物と夫の母からいただいた帯をしくて会場を盛り上げたいと思います！」と喜びの表情と艶やかな着物姿を会場に披露。その後、株式会社国際協力銀行 取締役会長 前田匡史氏より流暢な英語での祝辞をいただき、会場は厳かな雰囲気。続いて、MCを務めるパトリック・ハーランさんと望月理恵さんより挨拶をいただいた後、別所とLiLiCoさんによる「(アワードセレモニー) スタート！」の掛け声を合図に、会場の熱気は一層高まり、華やかなセレモニーの幕が開きました。



別所哲也



LiLiCoさん

■ グランプリを含む計12アワードの優秀作品、プロジェクトなどを発表！

● 最高賞「ジョージ・ルーカス アワード」は、ジン・オ監督の『スピーディ！』に決定！

今年のグランプリに見事輝いたのは、ライブアクション部門 アジア インターナショナルのジン・オ監督の『スピーディ！』です。受賞作品の感想を求められた別所は、「この作品、難しい時代を描き切った編集のリズムや描いている物語など、さまざまなものが重なった素晴らしいものだと思います。ショートフィルムの中にある奇想天外さを美しく、面白く描いたエンターテインメント作品だったと思います。」とコメントし、グランプリトロフィーを贈りました。ジン・オ監督は、「こんな賞をいただけるなんて夢にも思ってもいなかったです。この作品は、アジア人の少女が速読を学ぶというよりも、そのシステムを学ぶということや、時にそのシステムが社会的に機能しないことを知ることを描きたかったんです。この“重い”トロフィーを持って帰ります！」と、受賞の喜びを満面の笑みで伝えました。



別所哲也、ジン・オ監督、イム・スンミンさん



公式審査員

● ライブアクション部門(インターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパン)・ノンフィクション部門・アニメーション部門 発表&授与

公式審査員を務めた北村一輝さん、水野美紀さん、和田彩花さん、石井裕也監督、村田千恵子さん、クリスティン・チさん、ライアン・アショアさん、廣田裕介さんが登壇し、それぞれの賞の発表、表彰が行われました。ライブアクション部門 インターナショナルはフリチョフ・ヨーセフセン監督とモアテン・ボルグスタッド監督の『三人目』、ライブアクション部門 アジア インターナショナルはジン・オ監督の『スピーディ！』、ライブアクション部門 ジャパンは乙木勇人監督の『まわりまわる』が優秀賞に輝きました。また、ノンフィクション部門はパヴェウ・ピョートル・ホゼパ監督の『3人の調律師』、アニメーション部門はキアナ・ナグシネ監督の『シャリとライカとミックステープ』が受賞しました。

ライブアクション部門 インターナショナルの審査員を務めた石井監督は、「それがどんな形の作品であれ、ものづくりは困難を伴うものです。それが解っているからこそ、するのは大きなプレッシャーでした。困難の先に映画の価値はあると思っています、今回どの作品にも価値を感じ、勇気づけられました。今後、映画作りに人生をかける価値はあるんじゃないかと思う作品ばかりでした。」と作り手の視点ならではの感想を述べました。ライブアクション部門 アジア インターナショナルの審査員を務めた北村さんは、「どこの国ということではなく、『映画人』としてみんなで力を合わせていきたいという思いになると同時に、審査員を受けなければよかった、という気持ちにもなり、真剣に考えました。最後には、プロとして一緒に仕事をしてみたいと考えた作品を選びました。」と審査員を務めたことへの感想を述べました。ノンフィクション部門の審査員を務めた水野さんは、「ノンフィクションは、それぞれの監督の視点を切り取ったテーマで、それを深掘りしていく作品になっており、その人や作品を通してしか見れなかった世界を見せていただきました。その情熱と労力に、皆様へのリスペクトと感謝の気持ちを送りたいと思います。」と、自身にととの意義深い体験として語りました。アニメーション部門の審査員を務めた和田さんは、「アートな要素が多い作品が多かったなと思いました。豊かで独創的な色使いやキャラクター、ストーリー表現に落とし込んでいるのが良かったです。世界中を旅しているような風景を見ている感覚に近かったです。アニメーション部門ではきっかけや出会いを楽しんでいただけると嬉しいなと思います！」とコメントしました。

●TOKYO PROJECTの紹介

小池百合子東京都知事が登壇し、「東京都も23年間応援してまいりまして、先日、都庁で私から『Cinematic Tokyo部門』の受賞作品を発表しました。ショートフィルムは、心に刻まれる印象深いシーンがあったり、素晴らしいアート・芸術だと思います。このフェスティバルが1つのスプリングボードとして、東京から世界へ羽ばたく数多くの才能あるクリエイターが羽ばたけることを心から期待を申し上げます。」と挨拶。

その後、東京都と映画祭が立ち上げた「Generative Tokyo Project」から生まれたショートフィルム『彼方の声』の紹介に、監督の野上鉄晃さん、そして出演者の庄司浩平さん、江上敬子(ニッチェ)さん、植野行雄(デニス)さん、川瀬陽太さん、安野澄さんが登壇しました。野上さんは、「この作品は儚く美しい物語です。撮影をしながら、東京という街自体が儚さと美しさがあり、それをどう表現するか、と考えながら作りました。」と作品へのこだわりを語りました。主演を務めた庄司さんは、「脚本を初めて見た時に小説の純文学的な話かなと思って、ショートムービーの良さを活かせるのかなとも思いました。10年前だとSFに感じる物語だが、2026だと馴染みのあるように感じることができる作品だと思います。」と笑顔でコメントし、ショートムービーとお笑いの共通点は？と質問された江上さんは、「短い時間で掴みとオチが必要なところですかね。今回の出演が、それこそ掴みとオチの重要な部分に出させていただいたので、しっかり演じているのでぜひ作品を見てください。」と、芸人ならではの視点で作品について語りました。『彼方の声』はSSFF & ASIAの公式YouTubeチャンネルで全世界に向け公開中です。

●U-25 Project Best Short Award 発表&授与

25歳以下の若手映像作家を対象とし、個性が光る瑞々しい作品たちの中から最も優れた作品が優秀賞に選ばれるこの部門では、17歳の高田悠悟監督『バックステッチ』が選ばれました。高田監督は流暢に英語で話し始めると「17歳の高校生なんです。今朝、英語の小テストがあったので英語で挨拶しました。一緒にやってくれた友達や応援してくれた先生、家族に感謝を伝えたいです。」と大人顔負けのコメントで会場を沸かしました。プレゼンターには、長浜広奈さん、本望あやかさんが登壇。長浜さんは、「私と同じ17歳!?自分では思い付かない発想や世界観で本当に考えさせられる作品でした。」と絶賛しました。



『彼方の声』主演 庄司浩平さん



本望あやかさん、長浜広奈さん、高田悠悟監督

●ホッピー×映画祭企画『グリーンマン』作品完成発表・HOPPY HAPPY AWARD発表&授与

第5回HOPPY HAPPY AWARDの受賞作品『さんぼ道』の香月彩里監督による、ホッピーと映画祭のコラボレーション作品第7弾『グリーンマン』の制作発表を実施。ホッピービバレッジ株式会社 代表取締役社長 石渡美奈氏とともに、森永悠希さん、香月彩里監督が登壇しました。石渡氏は、「本作は承継と地球環境問題が作品のテーマになっています。偶然なのですが、今日、私と香月監督は母から譲り受けた着物を着ていて、まさに承継を体現した最高のチームで作品を作れました。」とコメント。香月監督は、「承継と環境問題のテーマで題材を探していた時にたまたま着物を着る機会があり、男性の着付け師に着せてもらいました。どういつきっかけで着付け師になったのかな、と着物のことや着付けのことを調べてみると、着物は親から子に受け継がれることもあり、エコなものだと知りました。これこそテーマにピッタリだ!と思い提案させていただきました。」と企画を検討していた当時を振り返りました。主演を務めた森永さんは、「セリフを喋りながら綺麗な着付けを目指さなきゃいけないのが難しかったです。」と撮影時の苦労を明かしました。また、着物を着たおふたりに対してのコメントをMCパトリックさんに振られると、役の着付け師として「とてもお綺麗です!」とコメントし、会場を和ませました。その後発表された、第6回「HOPPY HAPPY AWARD」では、八木浩貴監督の作品『運命代行屋』が受賞しました。

●「えんとつ町のプペル」新作『Chimney Town』上映

西野亮廣さんが原作を手掛けた人気シリーズ「えんとつ町のプペル」の新作『Chimney Town』の全編AIを活用して制作されたショートフィルムが世界初上映され、西野亮廣さん、プロデューサーの森コウさん、Coco Nittaさんが登壇しました。西野さんは、「想像が人間に残された最後のサンクチュアリかと思いきや、結局AIの得意領域だったという現実をこの一年で目の当たりにしました。それを前にしてヒトに残された仕事はなんなんだろうという問題提起として作らせていただきました。これができてしまう時代に僕たちはどういうものを作っていかなきゃいけないのかを話さなきゃいけない。」とAI時代における新たな映像表現について語りました。企画の経緯を聞かれた森さんは、「西野さんとCocoさんの2人の天才が熱を持って作ろうと言いついたのでこれはすごい作品ができるな、と。どうせ作るなら世界をあっと言わせる作品を作りたいと始めました。AIの進化は止められないけど、人間が持っている強いヴィジョンとディレクションで、どれだけシネマチックに作れるかにこだわりました。」と回答。Cocoさんは、「実写っぽいアニメにしたいと思い、もとななる映画のイメージをリアルに見せるよう、AIキャスティングなども行いました。」と作品へのこだわりを話しました。最後に西野さんは、「映画だけではなく、いろんなエンターテインメントを作っているけれどAIで生成できないもの以外はずべて淘汰される現実があるなかで、人間の力が必要だということが見えてきました。人間の想像が終わることがないとは言えます!」と熱く宣言し、会場を沸かせました。



ホッピービバレッジ株式会社 代表取締役社長 石渡美奈氏、森永悠希さん、香月彩里監督



西野亮廣さん

●Shibuya Diversity Award 発表&授与

渋谷区基本構想の普及啓発活動の一環である、ダイバーシティとインクルージョンをイメージした作品に贈られる本アワードは、エリシカ・ソファー・ドジメック監督の『僕の髪はどうなるの？』が受賞しました。エリシカ監督は、「今回は、癌治療で髪を失うという重いテーマですが、皆さんに見ていただいて、勇気と希望を感じて欲しいと思っています。受賞できて、大変光栄です！」と受賞への思いをコメント。プレゼンターの渋谷区長 長谷部健氏は、「今回の作品は、少し重いテーマを扱いながらも、非常にコミカルでユニークも伝えてくれる点が印象的でした。学校などで子どもたちに見てもらえる作品である点も高く評価し、選出させていただきました。」と話しました。

●Tom Yoda Next Frame Award 発表&授与

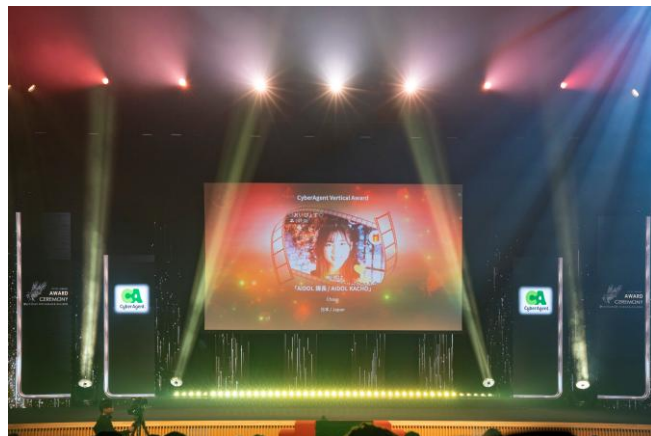
ノミネートの中で学生もしくはプロとしての活動をスタートしていない若き日本人クリエイターを対象とし、世界を見据えた高い『志』を持つ映像制作の学びと、次なるステージへの挑戦を後押しする本アワードを今年から新設。栄えある初めての受賞作品は、中村光輝監督の『ノット・ア・バット・サウンド』が選ばれました。中村監督は、「まさか選んでいただけとは思わなかったので、非常に光栄に思います。僕自身、大学院で映像を学んでいるのですが、初めての作品でこのような賞をいただけですごく嬉しく思います。また、皆さんにお会いできるように頑張ります。」と感謝と喜びの言葉を述べました。プレゼンターの株式会社ティーワイリミテッド 代表取締役会長 依田巽氏は、「映画は見るものですが、この作品は、音を聞いて音を感じて、愛を感じる作品でした。最終的には監督を感じられる非常にユニークな発想で、3分50秒が充実していたと思います。これから映画を作ろうとする若い人たちがこれをきっかけに世界に羽ばたいて精進してほしいなと思います。おめでとうございます。」と中村監督と若きクリエイターへのメッセージを贈りました。

●サイバーエージェント縦型アワード 発表&授与

縦型ショートフィルムコンテンツにおいて、近年「高い効果と表現力」を発揮した作品・プロジェクトに贈られる本アワードは、Chavo監督の『AIDOL課長』が受賞、「この作品は、“本当の自分”と“見せたい自分”の境界線に揺れる現代人の姿を笑いと切なさで描いた作品です。受賞させていただいたこと大変嬉しく思います！」と受賞への喜びをコメント。プレゼンターの株式会社サイバーエージェント おもしろコンテンツセンター センター長・プロデューサー 安藤達也氏は、「AIアイドル『AIDOL課長』のという不思議なタイトルだなと思いましたが、働く人に元気を与えるような作品になっていて皆様にも見ていただきたいと思いました。」と作品を評価。続いて、本広監督は、「横型監督として極めようと思ったが、縦型はまだブルーオーシャンです。これから縦型の名監督がどんどん出てくると思います！」と縦型ショートフィルムへの期待を語りました。



LiLiCoさん、依田巽氏、中村光輝監督、加藤健人 (撮影監督)



サイバーエージェント縦型アワードはChavo監督の『AIDOL課長』が受賞

●最震賞 supported by CRG 発表&授与

昨年に誕生したホラー&サスペンスカテゴリーがスケールを広げ、今年は全国から273作品が寄せられました。ファイナリスト6作品の中から、最も心を震わせる恐怖を纏った作品として、川中玄貴監督の『心霊写真屋』が受賞。川中監督は、「光栄なのですが、光栄すぎて、おそろしくて恐怖すら感じています。人を驚かせる、ゾクゾクさせるのは映像の原点だと思っているので、受賞いただけて大変嬉しく思います！」とホラー作品の監督ならではのユーモアを交えながら、受賞の喜びを語りました。プレゼンターの株式会社CRG 代表取締役CEO 四宮隆史氏は、「エンタメの原点がホラーにあると思っています。その中で、この作品はアイデアやオリジナリティ、構成力が特に突出しているだけでなく、縦型動画ならではの表現も印象的でした。新しい驚きを生み出す表現力を感じました。」と作品を絶賛しました。

●講談社シネマクリエイターズラボ及び今後の取り組みの紹介

株式会社講談社とSSFF & ASIAは、「1000万円さしあげますから、ショートフィルムをつくりませんか？」というキャッチフレーズのもと、映像クリエイター支援プロジェクトを2022年より実施しています。今年は、2025年の第三期受賞企画から生まれた作品が映画祭にて上映されました。株式会社講談社 代表取締役社長 野間省伸氏は、「このプロジェクトを通して、60をこえる映画祭で受賞しました。才能があるクリエイターのクリエイティビティあふれる作品に出会えました。これから、映画やドラマの作品も生み出していきたいです。」と今後の展開について語りました。さらに、今年で開催11年目を迎えるプロジェクト「BRANDED SHORTS」と組み、ブランドムービーに着目した新たなアワードを新設することを発表。詳細は9月開催の「Visual EXPO by BRANDED SHORTS」にて発表いたします。

●なら国際映画祭プロジェクトの紹介

別所がアンバサダーを務めている、なら国際映画祭が若手育成を目的にスタートしたプロジェクト「NARativeJr(ナラティブジュニア)」より、ユースの監督が制作したショートフィルム『袖ふきかえへしても』から、梅本侑伽監督、石川瑠華さん、原田開さん、森田想さん、そして、なら国際映画祭のエグゼクティブ・ディレクターの河瀬直美氏が登場しました。奈良と東京を遠隔で結び、河瀬監督のアドバイスを受けながら編集作業を重ねてきた梅本監督は、「学びが多い楽しい編集でした。普段はストーリーやシーンに沿っていますが、アドバイスをもらいシーンごとに入れ替えたりしました。」と河瀬監督との秘話を明かしました。出演した石川さんは、「私は監督より一回り近く上で、周りには個の強い俳優がおり、徐々に監督がやりたいことが浮き出してきた、という感じです。」と撮影を振り返り、原田さんは、「監督にはサポートをいただきながら、ときに無茶振りもありました(笑)明日香村に心をほだいて貰えれば、と思います。」と、森田さんは「奈良で人を取り巻く環境からも呼吸が聞こえ、土地に馴染んでお芝居をする感覚でした。」と感想を述べました。最後に河瀬監督は、「今年は世界遺産の大仏の前でレッドカーペットを行います。9月19日、ぜひ、手帳に書いておいてください！」と、なら国際映画祭の開幕をアピールしました。



株式会社講談社 代表取締役社長 野間省伸氏



河瀬直美さん、梅本侑伽監督、石川瑠華さん、原田開さん、森田想さん

●日本直販共同プロジェクトの紹介

日本直販株式会社は、秋元康氏を総合プロデューサーとして迎え、目下エンタメ・IP・web3を軸とする新たな事業体への転換を図っています。AYETプロジェクトの一環として「ショートドラマ企画コンテスト」をSSFF & ASIAおよび、クリエイタープラットフォーム「LIFE LOG BOX」と連携して実施することを発表しました。本施策は、クリエイターの発掘と育成を通して、オリジナルIPの創出とコンテンツの世界発信を目指すものです。

会場では、秋元氏からのビデオメッセージが上映され、会場の期待が一層高まりました。さらに、日本直販株式会社 代表取締役 **水谷彰孝氏**と一緒に登場したのは、秋元氏がプロデュースを務める元日向坂46のキャプテンの**佐々木久美さん**、SHOW-WAの**青山隼さん**、**塩田将己さん**。今後どのような作品に出演してみたいか聞かれた**青山さん**は、「私は元リーガーで、今は“夢を諦めるなオーディション”を経てきたSHOW-WAというグループで活動しています。その“夢を諦めるな”というテーマが今回のプロジェクトと共通していると聞き、共通の想いのもと、ぜひ作品に参加したいなと思いました。今後は、トレンドドラマのような世界観の作品に出演してみたいです。」と笑顔で回答。また、**塩田さん**は「一番大事にしているのが自分を信じて継続する力だと思っています。いどこにチャンスが転がっているかわからないので何歳になっても夢を諦めない姿勢と強い思いを心がけています。」と選ばれるために大切にしていることを語りました。**佐々木さん**は、「ショートドラマにしかできない表現の仕方があると思うので、その熱い想いを形にして世の中に広がるきっかけになればいいなと思っています！」と語りました。

●ディズニープラスにて、SSFF & ASIA受賞作など20作品を7月31日（金）より配信

ディズニーがグローバルで展開する定額制公式 動画配信サービス「ディズニープラス」にて、SSFF & ASIAが選んだショートフィルム20作品が7月31日（金）より配信されることが決定しました。ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社でローカル・コンテンツ制作を統括するエグゼクティブディレクターの**成田岳氏**は、「スター・ウォーズ」の生みの親であるジョージ・ルーカス監督が、初期の頃から本映画祭を応援されてきたご縁もあり、映画祭の最高賞には「ジョージ・ルーカス アワード」が設けられています。こうしたつながりに加えて、ディズニーとして質の高いストーリーテリングを発信していきたいという想い、そして次世代のクリエイターを支援していきたいという考えが重なり、今回の企画が具体化しました。」と企画の経緯を話しました。最後に、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 代表取締役社長 **日色保氏**は、「今回の取り組みを通じて、新進クリエイターによる多様な物語がディズニープラスを通じてより多くの方に届き、新たな才能や表現に触れる機会が広がっていくことを期待しています。またこうした出会いをきっかけに、観客の皆さまにとって新たな楽しみや発見が生まれ、クリエイターにとっても次のステップにつながる機会が広がっていくことを願っています。」と今後の期待を述べました。



日本直販株式会社 代表取締役 水谷彰孝氏、佐々木久美さん、青山隼(SHOW-WA)、塩田将己(SHOW-WA)



別所哲也、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 代表取締役社長 日色保氏、同ローカル・コンテンツ制作統括エグゼクティブディレクター 成田岳氏

セレモニーのフィナーレには、各プロジェクトの登壇者が壇上に集まり、**別所**は、「今年も素晴らしい作品が世界各国から集まりました。オンラインでもお楽しみいただけますので、ぜひ多くの作品に触れてみてください。また来年お会いしましょう！」と呼びかけ、**LiLiCoさん**は、「毎年、たくさんの素晴らしい作品に出会うことができますが、明日からは来年に向けての動きが始まりますね！今年も素敵な出会いをありがとうございました！」と笑顔でコメント。温かい言葉で、本年のアワードセレモニーを締めくくりました。

5/25（月）で行われたオープニングセレモニーで公開された『CINEMA TRAVELER』に続く、AI別所哲也によるショートフィルム第2段、『CINEMA TRAVELER 2』が初公開されました。

オープニングセレモニーから約2週間のうちに、同じく全編AIで制作された本作は、今年の映画祭で特集した「食」をキーワードに、AIの別所哲也が世界中の食文化を巡る旅へと巻き込まれていくアドベンチャー劇となっております。

6月11日～30日まで、映画祭オンライングランドシアターで限定公開されます。



(C) 監督:山口ヒロキ (GAUMAPIX)

ブランデッドムービーの祭典が進化 『VISUAL EXPO by BRANDED SHORTS』9月開催へ

SSFF & ASIAと連動し、2015年から企業のブランディング映像に光を当ててきた「BRANDED SHORTS」。11年目を迎える2026年、私たちは映像祭の枠を超え、ビジネスの課題解決に直結するリアルなプラットフォーム「VISUAL EXPO BY BRANDED SHORTS」へと生まれ変わります。

単なるショーケースではなく、映像（= VISUAL）という強力なツールを軸に、あらゆるブランド戦略、次世代の人材育成、そして新たな価値を生むビジネスマッチングを加速させる共創の場へ。映画祭代表の別所哲也は、この新たな展開に向け、以下のビジョンを掲げています。



「10年にわたり、私たちは映像が持つ『共感』の力を信じてきました。しかし今、ブランドに求められているのは、共感のその先にある『変革』です。2026年、BRANDED SHORTSは『VISUAL EXPO』へと進化し、映像をビジネスの戦略的資産として再定義します。クリエイターの感性と企業の志がぶつかり合い、新たな事業や人材が育つ。ここは、映像という言葉で未来を記述する『実利的な博覧会』です。視覚体験がビジネスを動かし、社会を動かす。その歴史的な転換点を、共に作り上げましょう。」

映像の枠を超え、ビジネスを動かす。「VISUAL EXPO」がもたらす4つの革新

・ブランディング概念の拡張

企業PRからパーソナルブランディング、AI×映像活用、さらには縦型動画まで。デバイスや手法を問わず、現代における「あらゆるブランド表現」を網羅するエキスパートへと発展します。

・アワード部門の強化

BRANDED SHORTSの核である、国内外の優れたブランド映像・観光映像を表彰するアワード。世界水準の評価基準で、次なる時代の指標となる作品を選定・発表します。

・商談を加速させる展示ブースの拡大

映像制作会社、広告代理店、最先端のXR/AI企業が集結。最新ソリューションの体験はもちろん、出展企業が新規顧客とダイレクトに商談し、ビジネスを創出する「実利の場」として機能します。

・業界を横断する日本最大級のコミュニティ

映像・広告・PRの担当者からクリエイター、次世代を担う学生まで。多様な層がリアルに集い、学び、つながることで、日本最大級の映像エコシステムを構築します。

※別所哲也が語るVISUAL VOICE EXPO by BRANDED SHORTSのビジョン全文はnoteにて公開：

<https://note.com/brandedshorts/n/n0506272dd06b>

※BRANDED SHORTS 公式HP：

<https://brandedshorts.jp/>

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 アワードセレモニー

日時：2026年6月10日（水） 15：45～19：30

場所：LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）（東京都渋谷区宇田川町1-1）

ゲスト（敬称略）：

<全体進行> 望月理恵、パトリック・ハーラン(パッケンマックン)

<開会挨拶> SSFF & ASIA代表 別所哲也、映画祭アンバサダー LiLiCo <開会ご祝辞> 国際協力銀行 取締役会長 前田匡史

<Generative Tokyo Project 紹介>

小池百合子東京都知事、野上鉄晃監督、庄司浩平、江上敬子(ニッチェ)、植野行雄(デニス)、川瀬陽太、安野澄

<Shibuya Diversity Award 発表・授与>

受賞者：エリシユカ・ソファー・ドジメック監督 / プレゼンター：長谷部健(渋谷区長)

<U-25 Project Best Short Award 発表・授与>

受賞者：高田悠悟監督 / プレゼンター：映画祭ナビゲーター 長浜広奈、本望あやか

<Tom Yoda Next Frame Award 発表・授与>

受賞者：中村光輝監督 ※セレモニーには加藤健人(撮影監督)も登壇 / プレゼンター：依田巽(株式会社ティーワイリミテッド 代表取締役会長)、映画祭アンバサダー LiLiCo

<HOPPY製作作品 発表>

森永悠希、香月彩里監督、石渡美奈(ホッピービバレッジ株式会社 社長)

<HOPPY HAPPY AWARD 発表・授与>

受賞者：八木浩貴監督 / プレゼンター：石渡美奈(ホッピービバレッジ株式会社 社長)

<「えんとつ町のプペル」新作『Chimney Town』上映>

西野亮廣、森コウ、Coco Nitta

<ライブアクション部門 インターナショナル 発表・授与>

受賞者：フリチョフ・ヨーセフセン監督、モアテン・ボルゲスタッド監督 / プレゼンター：水野美紀

<ライブアクション部門 アジア インターナショナル 発表・授与>

受賞者：ジン・オ監督 ※セレモニーには出演者のイム・スンミンさんも登壇 / プレゼンター：ライアン・アショア

<ライブアクション部門 ジャパン / 東京都知事賞 発表・授与>

受賞者：乙木勇人監督 ※セレモニーには出演者の太田奈緒さん、祐楽さんも登壇 / プレゼンター：北村一輝

<ノンフィクション部門 発表・授与>

受賞者：パヴェウ・ピョートル・ホゼバ監督 ※セレモニーにはポーランド広報文化センター 所長 ウルシュラ・オスミツカ氏が代理で登壇 / プレゼンター：石井裕也監督

<アニメーション部門 発表・授与>

受賞者：キアナ・ナグシネ監督 ※セレモニーにはドイツ連邦共和国大使館 文化課長 シュテファン・ビーダマン氏が代理で登壇 / プレゼンター：和田彩花

<講談社シネマクリエイターズラボ 紹介>

野間省伸(株式会社講談社 代表取締役社長)

<サイバーエージェント縦型アワード 発表・授与>

受賞者：黛大輔 (株式会社キュービック エディトリアルゼネラルマネージャー) / プレゼンター：本広克行監督、安藤達也(株式会社サイバーエージェント エンターテインメント プロデュース局 局長 プロデューサー)

<最震賞 supported by CRG 発表・授与>

受賞者：川中玄貴監督 / プレゼンター：四宮隆史(株式会社CRG 代表取締役CEO)

<なら国際映画祭プロジェクト 紹介>

河瀬直美(エグゼクティブディレクター)、梅本侑伽監督、石川瑠華、森田想、原田開

<日本直販共同プロジェクト 紹介>

水谷彰孝(日本直販株式会社 代表取締役)、佐々木久美、青山隼(SHOW-WA)、塩田将己(SHOW-WA)

<「ディズニープラス」コラボレーション企画 紹介>

日色保(ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 代表取締役)、成田岳(ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 エグゼクティブディレクター)

<審査員総評>

石井裕也監督、水野美紀、クリスティン・チ、ライアン・アショア、北村一輝、村田千恵子、和田彩花、廣田裕介、杉山知之

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 アワードセレモニー 受賞発表作品

ジョージ・ルーカス アワード(グランプリ) ライブアクション部門 アジア インターナショナル 優秀賞	韓国	ジン・オ(Jiin Oh) 『スピーディ!』
ライブアクション部門 インターナショナル 優秀賞	ノルウェー	フリチョフ・ヨーセフセン、モアテン・ボルゲスタッド 『三人目』
ライブアクション部門 ジャパン 優秀賞 東京都知事賞	日本	乙木勇人 『まわりまわる』
ノンフィクション部門 優秀賞	ポーランド	パヴェウ・ピョートル・ホゼパ 『3人の調律師』
アニメーション部門 優秀賞	ドイツ、フランス	キアナ・ナグシネ(Kiana Naghshineh) 『シャリとライカとミックステープ』
Shibuya Diversity Award 優秀賞	チェコ	エリシュカ・ソファー・ドジメック 『僕の髪はどうなるの?』
U-25 Project Best Short Award 優秀賞	日本	高田悠悟 『バックステッチ』
Tom Yoda Next Frame Award	日本	中村光輝 『ノット・ア・バッド・サウンド』
HOPPY HAPPY AWARD	日本	八木浩貴 『運命代行屋』
サイバーエージェント縦型アワード	日本	Chavo 『AIDOL課長』
最震賞 supported by CRG	日本	川中玄貴 『心霊写真屋』

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 概要】

- 映画祭代表：別所哲也
- 開催期間：
～6月30日（月）オンラインランドシアター
※期間により配信プログラムが異なります。
- 一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org
- オフィシャルサイト：<https://www.shortshorts.org/2026>
- 主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会

SHORTSHORTS
FILM FESTIVAL & ASIA 2026



イベント中のオフィシャル素材、各種ショートフィルムデータ等を格納しています。

<https://x.gd/kHQxB>

【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）
担当：竹内(070-1516-6026)、清田(080-4652-2201)、佐藤(080-4652-1425)
TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会
担当：田中

TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail：press@shortshorts.org